

対象地域	フランス リヨン (及びローヌアルプ地方)	在リヨン領事館事務所 リヨン日本人センター治安情報収集チーム	
		作成日	対象期間
調査方法 新聞	Le Progrès 他	2008年7月31日	2008年7月
集計情報の流布	未	在留邦人対象に各団体及び領事館ルート	
調査項目:	① 邦人対象の治安情報 ② テロなどの一般治安情報 ③ 今月の出来事 ④ その他の情報		

報告要旨

1、邦人対象の治安情報

- A、一般的傾向
- B、地区別 犯罪集計結果:補足文書 1
- C、多発の手法と場所の特定、防止策 :補足文書 2

A、一般的傾向

警察署長を名乗る人物による詐欺事件が報告されている。このような種類の電話を受けた場合には冷静に対処することが大切である。バルコニー伝いに5階のアパートに侵入した空き巣の犯行も報告されている。上層階でも特に就寝時の戸締りには十分に注意すること。クレジットカードの番号などの情報を盗まれてカードを不正使用される被害が頻発している。貴重品の管理には十分に注意すること。

[補足文書 1]

B、地区別 犯罪集計結果

[補足文書 1]

2008年7月集計結果

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	リヨン東	リヨン西	リヨン南	リヨン北	アン県	イゼール県	ロワール県	合計
すり																	0
空き巣	1	1	1				1		1	4	1	2	2				14
置き引き							1										1
引ったくり			1	1		1											3
万引き																	0
強盗	1	1	1						1	2			4				10
窃盗(車・自転車)								1		1							2
カージャック																	0
車内盗難										1							1
猥褻行為・強姦																	0
いたずら電話・迷惑																	0
脅し・暴力行為	1	1	2		1		3	1	1	12	1	3	6				32
詐欺(カードなど)			1	1		3	1				2	1	2				11
拉致・誘拐																	0
破損・放火										1			2				3
ストーカー																	0
麻薬取引・所持																1	1
飲酒／無免許運転	1						1	1	3	4		1	3		1		15
その他													1	2	1	1	5
合計	4	4	6	1	2	3	7	3	6	25	4	7	20	2	2	2	98

備考欄: リヨン東→Mezrieu, Saint-Priest, Bron, Vénissieux, Villeurbanne, Saint-Fons
 リヨン西→Craponne, Chaponost, Francheville, Tassin, Brindas, Brignais, Ecully, Sainte-Foy-Les-Lyon
 リヨン南→Oullins, Pierre-Bénite, Saint-Genis-Laval, Givors, Vernaison
 リヨン北→Rillieux, Vaulx-en-Velin, Décines, Caluire, Genas

* 数字はプログレ紙に掲載された軽犯罪の記事の数で、統計的な意味はない。

【補足文書 2】

C.多発の手口と場所の特定・防止策（新聞による報道記事から）

① 偽の肩書きを使った詐欺事件

7月中旬、新手口の詐欺事件が報告されている。

手口は警察署長を名乗る男から電話があり、「あなたの家族が交通事故を起こして子供が死亡。子供の両親は、遺体を祖国に運送する費用を払えば被害届けは出さないとやっている。」そして、「これに同意するのなら、すぐに使いのものをそちらに送る。」と言う。しばらくして、被害者が指示された額の現金を用意して待っているところに警察証を提示した女が普通車で現れて現金を持ち去るといった手口。

何件かの事件は、電話を受けた被害者がすぐに該当の家族に連絡したり、最寄の警察署に届け出たために偽の電話であることが判明し未遂に終わり被害は出なかったが、クラブヌ市では、電話を受けた被害者の夫が警察署に赴いて事実を確かめている間に、偽の警察官がすでに被害者宅に姿を現して現金 1,000ユーロを持って逃走していた。

同様の手口の犯行未遂が数件報告されていることもあり、憲兵隊は捜査を開始。警察関係者を名乗って多額の現金を要求する電話には十分に気をつけ、このような電話があった場合にはただちに最寄の警察、憲兵隊に連絡するように呼びかけている。（プログレ紙 7月15日付）

日本でも同様の手口のオレオレ詐欺事件が多発したことは記憶に新しい。このような電話を受けたら、ただちに最寄の警察署に連絡して事実を確認するなど冷静に対処したい。

また、相変わらず偽の配管工、郵便配達人などによる詐欺事件の被害も報告されている。

② バルコニー伝いの空き巣

7月17日午前1時ごろ、リヨン1区でひとりの男が建物の壁をよじ登ってバルコニー伝いに5階まで登り、オーケストラ指揮者のアパートに侵入。高価なバイオリンとデジタル機器を盗んで進入した経路を後戻りして逃走を図ったが、バランスを崩して4階のバルコニーに転落。物音で目覚めた4階の住人もみあいになったが、犯人は逃走に成功。4階の住人は怪我を負ったがすぐに警察に通報。駆けつけた警察官が「路上で暴行を受けたので救急車を呼んで欲しい」と近くのパーに居た犯人を発見、逮捕した。この男は同様の手口で他に2件の犯行をはたらいていた疑い。（プログレ紙7月12日付）

アパートの上層階でも空き巣が侵入する。暑い夜が続いているが、就寝時の戸締りには十分に気をつけること。

③ 駐車中の車の車上荒し

7月3日早朝、ヴェニシュール市で駐車中の車上荒しをしていた33歳の男が現行犯で逮捕された。男は逮捕時にワゴン車と乗用車から盗んだとされる物品を所持していた。（プログレ紙7月15日付）

駐車の際には、できるだけ車内に物を残さないこと。貴重品だけでなく、上着やちょっとした機材でもそれを盗むために車を壊されることがある。また、できるだけトランクにも荷物を残さないこと。車がロックされていてもトランクは簡単にこじ開けられる。

④ インターネット上で知り合った相手による詐欺事件

7月中旬、インターネットの出会い系サイトで知り合った相手をだます詐欺事件の犯人の男が2名逮捕された。二人の手口はほとんど同様のもの。被害者はインターネットの出会い系サイトを利用する女性ら。

犯人はこれらの女性と実際に会う約束を取り付ける。そのうちの何人かとは定期的に付き合いを続け、隙を見て彼女らのクレジットカードの情報を盗み、その情報を利用してネット上で買い物をするという手口。被害者らは、クレジットカードの利用明細を見て不審な利用があることに気付いて銀行に連絡。この情報から犯人が確定された。（プログレ紙7月11日付）

また、7月17日には同僚のクレジットカードの情報を盗み、その情報を使ってコンピュータ機器や電話など3,000ユーロもの買い物をしていた男が逮捕された。（プログレ紙7月19日付）

クレジットカードの番号など簡単に盗まれる情報のみで、インターネット上で買い物することが可能である。貴重品の管理には十分に注意し、利用明細をこまめにチェックすること。少しでもおかしいと思われる利用がある場合にはただちに最寄の銀行などに連絡し、警察に被害届けを出すこと。また、インターネット上で知り合った人物と実際に会う約束をする場合には、一人で赴かないなどの注意が必要である。

2.テロなどに関する一般治安情報

7月25日、ディジョン市近郊で指名手配中のETAメンバー2名が逮捕された。(7月26日付)

3. 在留邦人の被害事例

ローヌ=アルプ地方における被害報告は特になし。(在リヨン領事館ソース)

4.リヨン、ローヌアルプ地方今月の出来事

① コルバ市で28キロの爆薬が盗まれる

7月18日、リヨン近郊のコルバ市にある公安爆発物処理班に所属する施設より28キロの爆薬 SEMTEX が盗まれているのが発見された。この爆薬は過去にテロリストによって使用されたこともある危険な部類に入り、憲兵隊は対テロ局と協力して捜査を続けている。この施設は1995年以降実際には使われていないことになっており、コルバ市長にも爆薬がストックされていることは知らされていなかった。(プログレ紙7月19日付)

② 子供たちを乗せたバスの事故

6月12日朝、フランスサッカーチーム優勝10周年記念の試合に出るためにパリ近郊に向かっていたリヨン、サンテティエンヌのジュニアサッカーチームの10-12歳の子供たちを乗せたバスが、高速道路A6乗用車と接触事故を起こし脇に転落。10歳の少年一人が死亡、数人が重傷を負った。独立記念日の週末で大混雑していた道路で起きたこの悲劇に、混雑が予想される時期の子供たちを乗せたバスの運行禁止を求める声も高まっている。(プログレ紙7月15日付)

③ 父親が車内に子供を忘れる事件

7月15日、イゼール県で父親が2才半の息子が車内にいることを忘れて車を駐車。その後数百メートル離れた仕事場で仕事をしている間に車内に残された子供が死亡するという事件があった。(プログレ紙7月16日付)

また、22日にはソーヌ=エ=ロワールで3歳の娘が車内にいることを忘れて勤め先の駐車場に車を駐車。そのまま仕事に出かけている間に車内に残された子供が死亡するという事件があった。(プログレ紙7月23日付)

いづれも、普段子供を車に乗せる習慣のない父親が車内に子供が居ることを完全に忘れてしまったために起きた事故であるが、相次いで報告された悲劇的な事件にフランス全国がショックを受けた。

④ 7月14日の騒ぎによる被害

例年7月14日の祭典の後フランス各地で暴徒による被害が見られる。今年も同日夜にフランス全国で約300台の車が放火の被害に遭い、100名ほどが逮捕された。ローヌ県は比較的静かな夜となったが、ヴェニシュー市、ヴォー=エン=ブラン市などで10台ほどの車が放火の被害にあたり、警官隊と小グループによるもみあいなどが記録された。(プログレ紙7月15日付)

⑤ 落雷で1名死亡

7月11日午後、ローヌ=アルプ地方は局地的に雹、雷雨を伴う激しい大雨に襲われた。デシーヌ市では野外で緑地整備の実習を行っていたグループがに落雷。一人が死亡、二名が重傷を負った。このほかにも雹やあられによる自動車や樹木への被害も多く出た。(プログレ紙7月12日付)

5.その他の情報

① カージャッキングは減少傾向

2000 年初めに多発したカージャッキングであるが、近年ローヌ県におけるカージャッキングの被害は減少傾向にある。ローヌ県の憲兵隊内でカージャッキング被害専門の部隊が編成されて以降、2002、2003 年に被害が爆発的に増加した後、次第に犯行テリトリーが都市部から田舎に移行し、年 25 件ほどの被害にとどまるようになった。2008 年度にはすでに 10 件ほどの被害が報告されている。同様にホームジャッキングによる車の盗難の被害も減少傾向にある。この減少傾向は、犯行の主な標的となっていた高級車の所有者らがGPSなどの位置確認装置を設置することが多くなったことにあると見られている。憲兵隊は、カージャッキングを予防するには常時車をロックし、普段から周囲の状況に充分注意しておくことが必要であるとしている。カージャッキングの犯人らは突然襲うというのは稀で、標的の車に目をつけてからしばらく尾行を行うからである。(プログレ紙 7 月 10 日付)

② ヴァカンスシーズンに警察、憲兵隊による《 opération tranquillité vacances 》

ヴァカンスシーズンに入り、警察、憲兵隊による住人不在の住居のパトロール「opération tranquillité vacances」が効果をあげている。7 月から 9 月中旬にかけて、事前に最寄の警察署または憲兵隊にヴァカンスで不在の旨を連絡し、パトロール要請の申し込みをすると、不在期間中警察が重点的に住居をパトロールしてくれるシステム。ローヌ県では申し込み数が増加している。毎年ヴァカンスシーズンには空き巣の被害が多発しているが、このシステム導入以降憲兵隊ゾーンでは 2007 年度は前年度 515 件あったヴァカンスシーズンの空き巣の被害が 333 件まで減少している。(プログレ紙 7 月 18 日付)

③ 水浴に関する注意

暑い日が続く、水浴に出かけるリオン市民も多くなる。ローヌおよびソーヌ川岸で水浴するグループを良く見かけるが、水浴禁止の標識が出ているところでの水浴は大変危険であることを忘れないこと。リオン近郊では、アン県のミリベル・ジョナジュ公園に監視員のいる岸が、その他ローヌ県には 51 箇所の水浴可能な場所がある。(プログレ紙 7 月 15 日付)

また、子供連れの場合には常に監視すること。ほんの数分の間に行方がわからなくなり水死しているのが発見されるという事故がすでに数件報告されている。